休校中のメディア接触増加の要因

子どものネットリスク教育研究会
本間史祥

報告の流れ

1 コロナ禍の子どもたちの生活の変化とネット依存のリスク要因

2 メディア接触増加の要因

- 家族構成による違いはあるか？
- 使用する端末の影響はあるか？
- 家族の関わり方による違いはあるか？

- 第2波・第3波への備え
- どのような子どもがネット依存傾向にあるのか、その危険因子について探究する。

第１部

コロナ禍による
子どもたちの生活の変化と
ネット依存のリスク要因

コロナによって急激に変化した子どもたちの生活

2020年3月2日　全国一斉の臨時休校
2020年4月16日　緊急事態宣言　全国に拡大
（休校の延長）

約3ヵ月間、登校せず（一部地域除く）

2020年5月25日　緊急事態宣言解除

・日中、自宅で過ごす

・部活動もなし。休日に遊びに行くこともできない。行事もなし

・オンライン授業を行った学校は全国で5%程度
（授業などの学校とのつながりもない）

コロナによって急激に変化した子どもたちの生活

臨時休校中に「子どもだけ」で過ごしている

小学生(n=408)	中学生(n=261)	高校生(n=265)
36.3%	67.0%	74.0%

出典：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング 「一斉休校等による子どもの生活への影響と保護者の負担感」

利用／視聴が増えた媒体

	中学生(n=1,293)	高校生(n=3,549)
スマホ	72.2%	71.5%
TV	54.8%	59.3%
雑誌・漫画・本	18.9%	15.6%

自宅内で増えた行動

	中学生(n=1,293)	高校生(n=3,549)
ゲーム（スマホ以外）	43.1%	33.1%

出典：TesTee Lab「コロナウイルスの影響調査」

ネット依存に関するリスク要因　－先行研究から－

小中学生のネット依存に関するリスク要因の探究　伊藤賢一（2017,群馬大学）

・ネット依存が疑われた小中学生はLINEや動画サイト、オンラインゲームは過度のネット利用に結び付きやすい。
・ネットへの依存傾向は生活の不満足と関連している。

小中学生のネット依存と生活満足度　伊藤賢一（2018,群馬大学）

（ネット依存のリスクの一因として）学校での勉強の理解や学校生活への満足度の影響が「家族団らん」や生徒自身の「将来の夢」よりも大きい。

スマホゲーム依存症　樋口進（2018,内外出版社P56）
-ゲーム依存になりやすい人（危険因子）縦断研究からいえること-

・ゲーム時間が長い
・ゲームを肯定する傾向がある
・母子、父子家庭である
・ゲームにまつわる問題が多い
・男性である
・友人がいない（少ない）

ネット依存に関するリスク要因 - 先行研究から -

インターネット・ゲーム依存症-ネトゲからスマホまで- 岡田尊司（2014,文春新書P144）
はまりやすい二つのパーソナリティ・タイプ

・衝動的で新しい刺激を求めるタイプ

やりたいという気持ちが制御できず、過度な使用に結び付きやすい

・社会的能力が低く、回避的なタイプ

リアルでの関係では緊張や不安などを感じ、オンラインは居心地よい

本学学生におけるネット依存傾向と愛着スタイルとの関連について　藤井壽夫（2019,函館短期大学）

・ネット使用時間と愛着スタイルとの間に明確な関連が認められた。

不安型愛着スタイルの人はネット依存傾向が中程度以上に高く、ネット使用時間も長時間になる傾向。

ネット依存傾向の国際比較　総務省（2014）

スマートフォン保有者の方が依存傾向が高くなる。

先行研究や経験則を踏まえての仮説

仮説１
日中に子どもだけで過ごしているとメディア接触が増えるだろう

制御や管理する人がいないとメディア接触は増えるだろうし、そもそも学校や部活、友達との交流がないと現実生活に不満足であるため。

仮説２
新たに使い始めた機器がスマホの場合、メディア接触が増えるだろう

総務省調査からスマートフォンが最も依存傾向が強くなるため、特に今回の臨時休校で自由な時間が増えた分、メディア接触が増えるのではないか。

仮説３
休校中にメディア接触以外の活動をした場合、メディア接触が減るだろう

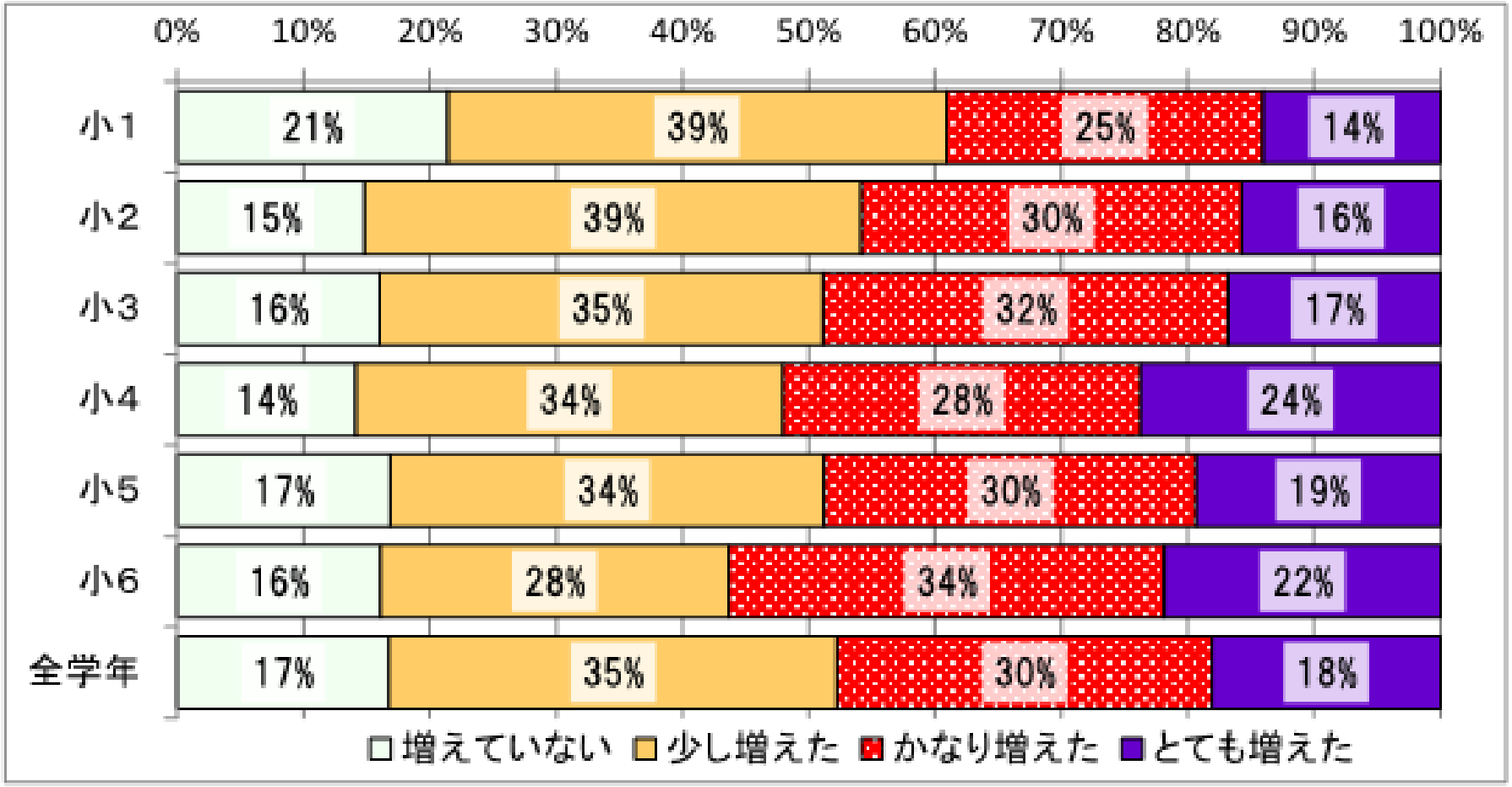
非メディア接触は今回のような臨時休校期間中でもメディア接触の低下を促すだろう

第２部
メディア接触増加要因
―臨時休校調査から読み取れること―

Ⓒ2019 THInet

クロス集計から見えてくるもの

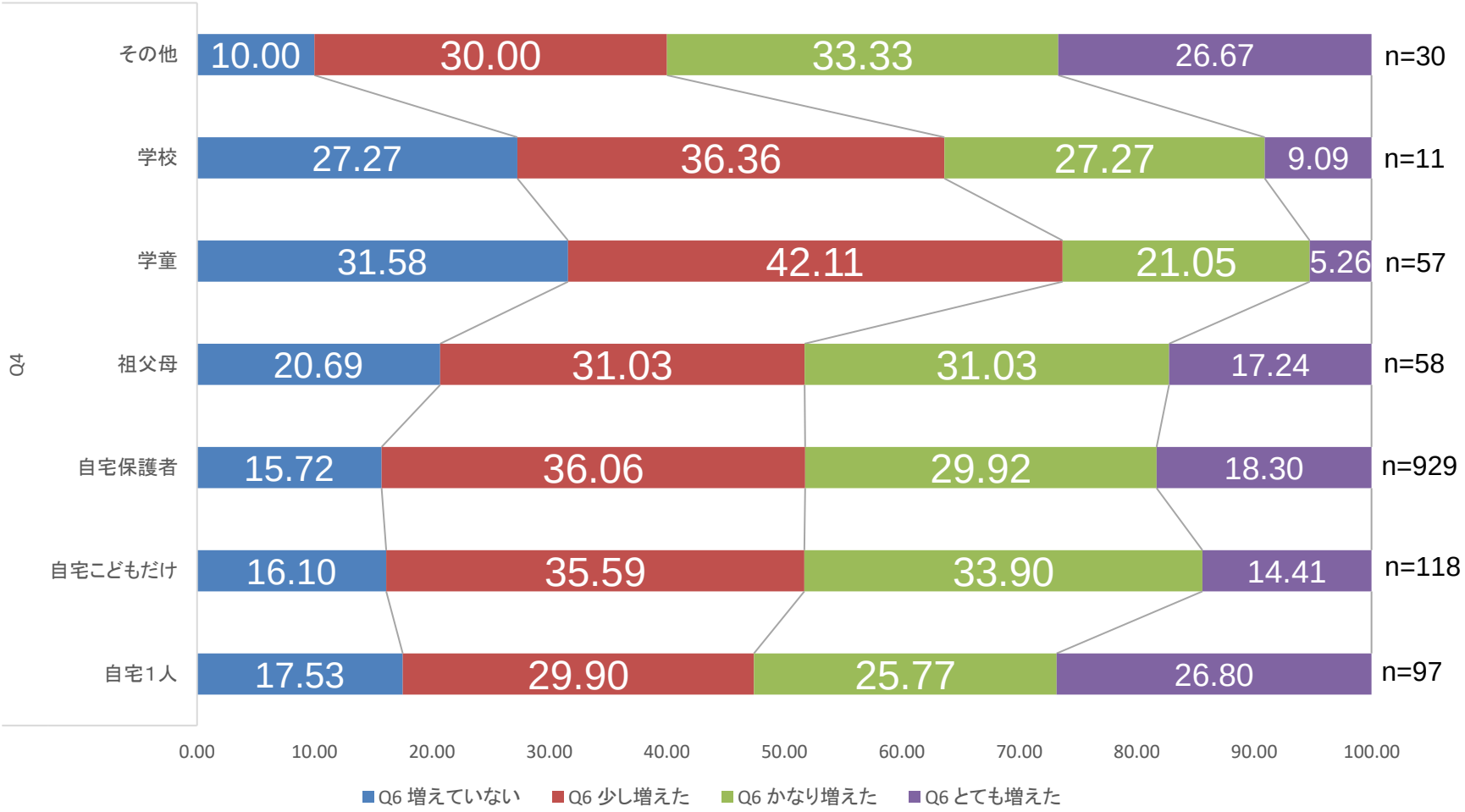
児童学年と休校期間中のメディア接触増加



どの学年においても、「少し増えた」「かなり増えた」「とても増えた」を合わせると80%程度で推移している。

クロス集計から見えてくるもの

日中の様子とメディア接触増加の関係

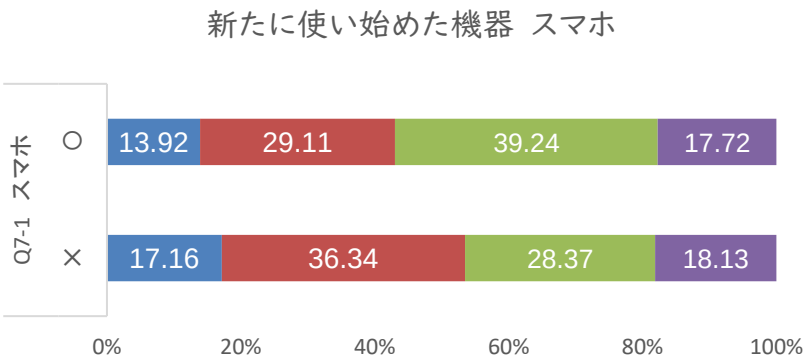


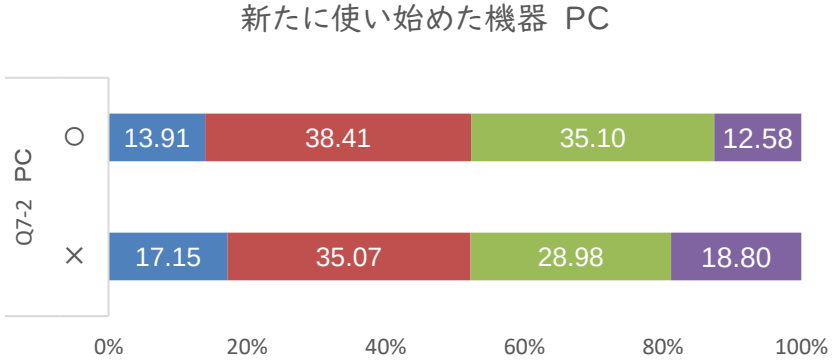
・「自宅で1人」の場合は「かなり増えた」「とても増えた」が最も多い。「とても増えた」が有意に多い。(*p<.020*)　保護者や祖父母と一緒でも8割程度メディア接触が増えた。

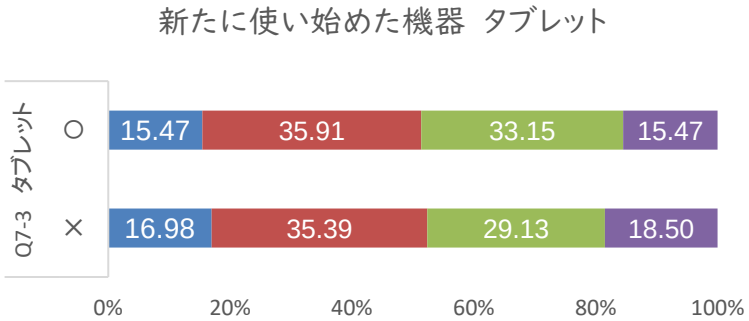
・「学童」は「増えていない」が有意に多い。(*p<.002*)

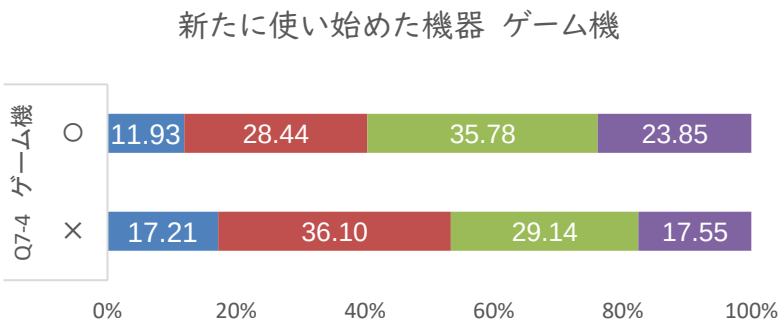
クロス集計から見えてくるもの

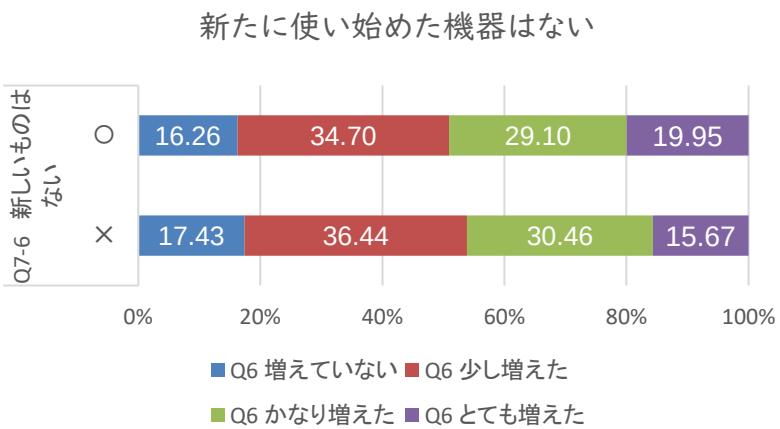
メディア接触増加と新たに使い始めた機器の関係







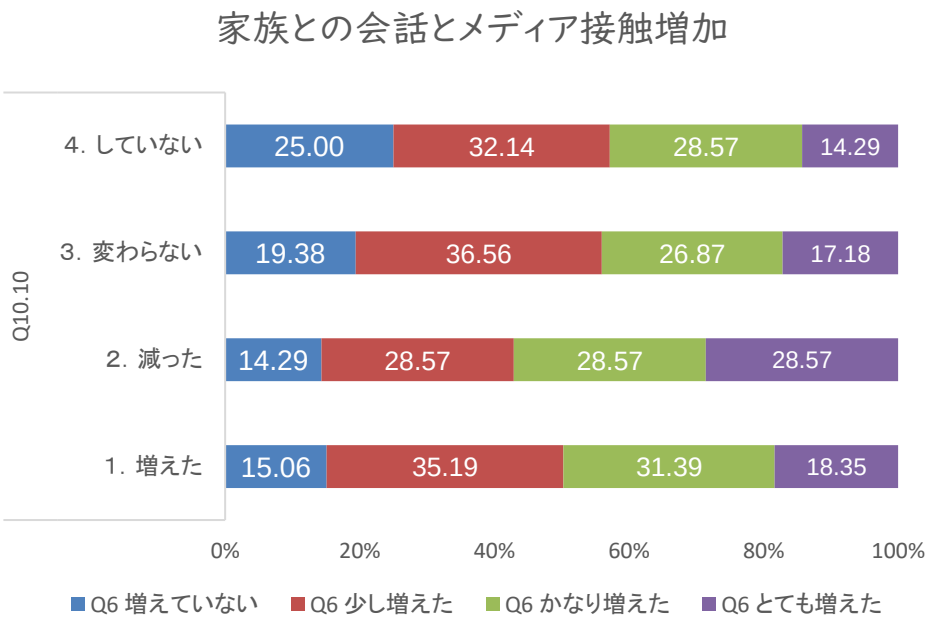


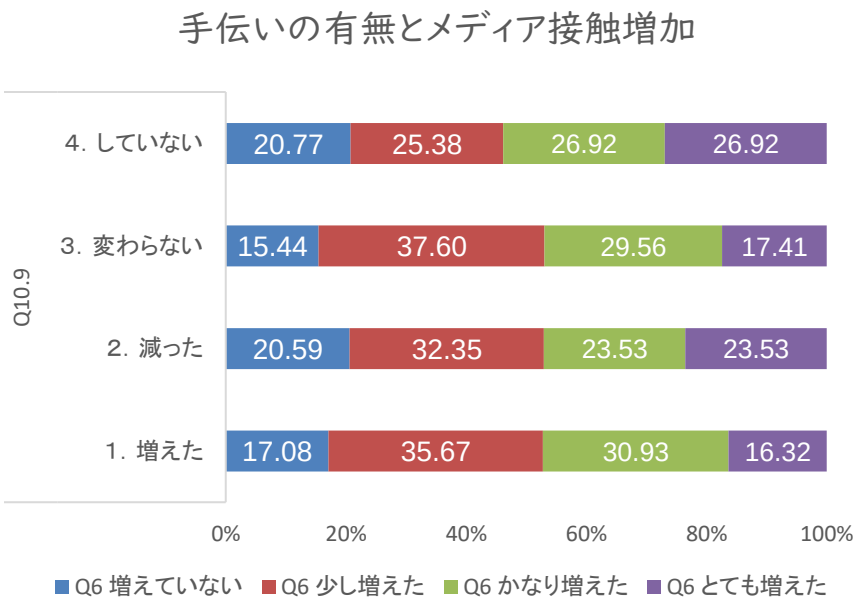


今回、新たに使い始めた機器とメディア接触増加に関して、特徴的なデータは得られなかった。

クロス集計から見えてくるもの

休校中の非メディア接触の有無とメディア接触増加の関係



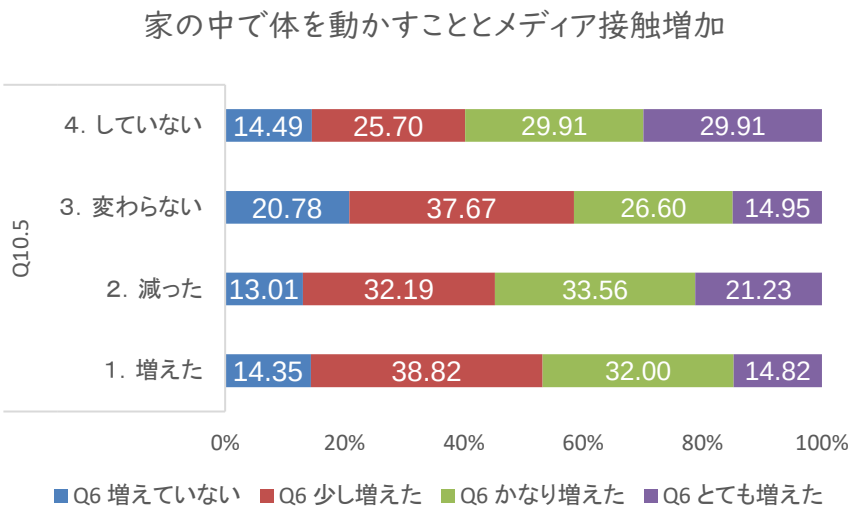


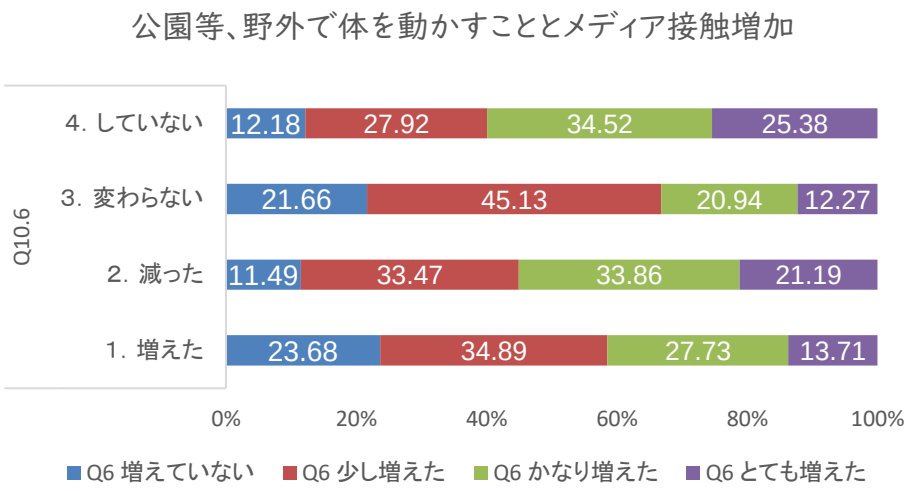
有意差があったもの

・手伝いを「していない」と回答した場合、メディア接触が「とても増えた」

クロス集計から見えてくるもの

休校中の非メディア接触の有無とメディア接触増加の関係





有意差があったもの

・家の中で体を動かすことをしていないとメディア接触が「とても増えた」

・公園等、野外で体を動かすことが「減った」こととメディア接触が「かなり増えた」「とても増えた」

その他

音楽を聴くことが増えた ⇒ メディア接触が増えた（スマホで聞くことが多い?）

読書（紙の本）の増減とメディア接触については有意差が認められなかった。

スマホやゲーム機でゲームをするが増えた ⇒ メディア接触が増えた

まとめ

仮説1
日中に子どもだけで過ごしているとメディア接触が増えるだろう

自宅で一人で過ごしている場合が最もメディア接触が増え（26.8%、有意差あり）、または兄弟と一緒でもメディア接触は増えている。しかし、今回のような緊急措置中であれば、保護者や祖父母と一緒でも8割程度、メディア接触が増えている。学校や学童クラブなどに行っているとメディア接触が減っている傾向があるので、メディアから遠ざけることが必要である。

仮説2
新たに使い始めた機器がスマホの場合、メディア接触が増えるだろう

今回の調査からは、新たに使い始めた機器に関して、メディア接触の増減の関係は認められなかったが、他の機器と比べた時に10%程度「かなり増えた」「とても増えた」多いことがわかる。

仮説3
休校中にメディア接触以外の活動をした場合、メディア接触が減るだろう

メディア接触が減る要因は家族との関わりであることがいえる。家族の会話や手伝いをどのように作っていくかがポイントである。また、野外活動もメディア接触を減らす一つの手段であることがいえる。コロナ禍な緊急事態の時に野外活動をすること自体が難しい部分もあるが、周りの大人がコーディネートする必要がある。

ご清聴ありがとうございました

Thank you for listening